

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 14 日現在

機関番号：17102

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26760006

研究課題名(和文) 東南アジアの社会変容と国際的イスラーム・ネットワークとの相関に関する総合的研究

研究課題名(英文) Research on transformation of South East Asian society in relation with international Islamic network

研究代表者

木下 博子(木下博子)(Kinoshita, Hiroko)

九州大学・国際交流推進室・助教

研究者番号：60711223

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題の実施によって、東南アジアとイスラーム世界をつなぐ国際的イスラーム・ネットワークを包括的に明らかにした。着目したのは宗教外交、巡礼事業など国家が担うフォーマルなネットワーク、および留学による知的交流と、イスラーム社会組織による個人や民間の諸組織が担うインフォーマルなネットワークである。その結果、ネットワークの担い手である国家や、個人のもつトランスナショナルな社会的ネットワークによって、宗教規範のみならず社会規範としてのイスラームを国家、個人の文脈で取捨選択していることが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：Through the implementation of this research project, we clarified the international Islam network connecting Southeast Asia and the Islamic world. Focusing on formal networks such as religious diplomacy and pilgrimage by the state as well as intellectual exchange through studying abroad and informal networks by Islamic social organizations, as a result, it can be pointed out that through the social network of the nation as the carrier of the network and the transnational social network of the individual, they select Islam based on their context as a social norm as well as religious norms.

研究分野：地域研究

キーワード：イスラーム トランスナショナル 東南アジア

1. 研究開始当初の背景

これまで東南アジアのイスラームは、イスラーム研究、および東南アジア研究の双方において重視されてこなかった。イスラーム世界を考えるうえで東南アジアの重要性を指摘した研究もあるが(小杉 1999「イスラーム世界の東西：地域間比較のための方法論的試論」『東南アジア研究』)、イスラーム研究では依然として、東南アジアの事例は周縁化されている。一方、現代東南アジアのイスラームを論じた研究においては、イスラームの持つトランスナショナルな要素の重要性は指摘されながらも、各国のムスリムの動態を分析するさいに国際的な視点は持ち込まれていない(加藤剛編 2004『変容する東南アジア社会』、床呂郁哉編 2013『東南アジアのイスラーム』)。

現代の東南アジア社会は、開発、近代化、グローバルゼーションという世界的な動きに連動すると同時に、イスラームが社会規範として受容されるようになり、急激な変化に直面している。東南アジア地域は、1980年代以降の世界的なイスラーム復興運動に大きな影響を受けてきた。イスラームは社会規範、社会秩序を維持するものとして、これまで信仰心の薄かった世俗的なムスリムの間にも急速に浸透し、社会全体、あるいは国家規模でイスラーム化のベクトルへを強めている。こうした動きは、当該地域とイスラーム世界との通時的、共時的な相互交渉から多大な影響を受けているのである。

2. 研究の目的

上記のような背景にもかかわらず、先行研究では、台頭するイスラームが社会変容のダイナミズムに及ぼす影響については、捉えきれていない。それには、東南アジアを広大なイスラーム世界とつながった国際的イスラーム・ネットワークに位置づけて分析する、というトランスナショナルな視点が欠如しているからである。すなわち、東南アジア社会の変容を考察するためには、イスラーム世界と有機的につながる国際的なイスラーム・ネットワークの解明が喫緊の課題であった。

筆者は、これまでの研究において、インドネシアと中東地域とのネットワークを問題関心として研究を行ってきた。なかでも16世紀後半から現代に至るまで継続する留学に着目し、世界最古のイスラーム高等教育機関であるエジプトのアズハル大学に学ぶインドネシア人留学生が、現代インドネシア社会で果たす社会的役割について明らかにした。

こうした研究基礎の上に、本課題では、世界最大のムスリム人口を擁するインドネシアに着目し、同国の国際的イスラーム・

ネットワークの全容を解明することを試みた。具体的には、(1)イスラーム世界と国家レベルで構築されているフォーマルなネットワークと、(2)イスラーム社会組織やNGOなどを通じて、民間レベルで形成されるインフォーマルなネットワークの双方を明らかにする。なお、本研究課題の射程はインドネシアにおける国際的イスラーム・ネットワークの解明であるが、将来的には東南アジア全域の事例研究を進め、東南アジアにおける社会変容を国際的イスラーム・ネットワークとの相関に基づいて解明することを目的としている。

3. 研究の方法

本研究を遂行するにあたっては、地域研究の手法を用いた。具体的には、現地語(インドネシア語、アラビア語)で書かれた外交資料、巡礼関係資料の解析、加えて巡礼専門旅行会社等への聞き取り調査、スンナ派圏、シーア派圏、そして北米・ヨーロッパ圏への元留学生への聞き取り調査、および民間イスラーム社会組織への参与観察を中心とするフィールドワークである。

以下、各実施年度の研究方法について記載する。平成26年度は、外交資料の収集、分析、平成27年度は、巡礼事業関連資料の収集、分析および聞き取り調査を実施した。また、平成28年度から平成29年度にかけてインドネシアにおけるフィールド調査を実施予定であったが、筆者の研究関心の拡大から、研究計画最終年度前年度に新たな研究課題に応募し、採択されたことから、平成29年度に予定していたインドネシアでのフィールド調査は実施していない。以上の研究方法にもとづき、インドネシアにおけるフィールド調査を中期的に実施し、留学による知的ネットワークと、イスラーム社会組織の形成するインフォーマルなネットワークを解明に取り組んだ。

4. 研究成果

本研究課題は通算で4年間を予定していたが、筆者の研究・問題関心が拡大したことによって、上記のとおり、研究計画最終年度前年度応募の制度を利用し、本研究課題をさらに発展させた研究課題に取り組むこととなった。本研究課題の実施によって得られた成果は以下の通りである。

(1) フォーマル・ネットワークの解明

平成26年度は、外交資料からみる宗教外交ネットワークを解明するために、資料収集および資料解析を実施した。資料収集においては、国内および海外関係諸機関を訪問した。訪問先は、京都大学東南アジア研究所図書館、シンガポール大学東南アジア研究所、およびシンガポール大学中東研究所である。収集した資料は、以下の2つの時

期に分けて分析を実施した。

第一に、インドネシアにおいて中東諸国と密接な関係を構築し、国内においても政権とイスラーム勢力が密接な関係性を維持していたスカルノ政権期からスハルト政権中盤（1980年代半ばまで）、第二に、スハルト政権がイスラーム政治勢力の排除を実施した1980年代後半からユドヨノ政権にかけての時期である。

この結果、第一の期間では、政権とエジプトをはじめとする中東・北アフリカ諸国ではインドネシア人留学生の増加に伴う留学生会館や留学生団体が整備され、現地のインドネシア大使館が中心となって、各国政府と綿密な連携が実施されていたことが明らかになった。次に第二の期間では、留学生が増加したことを背景に、各国政府とのつながりが強化された時代であった。

次に、平成27年度の研究成果について述べる。平成27年度は、巡礼事業からみる国際的イスラーム・ネットワーク解明のため、巡礼にかんする資料収集と資料解析、巡礼の商業化の実態について、資料解析では明らかにできない商業化の担い手である巡礼専門旅行者への聞き取り調査を実施した。H27年度は、インドネシアでの現地調査の実施が不可能であったため、主として国内において資料収集を実施した。また、二次資料も併せて精査することで巡礼の商業化の概要の解明に努めた。また、巡礼専門旅行者への聞き取り調査については、上記通り現地調査が実施できなかったため、他の用務で赴いたエジプトにおいて、現地でインドネシア人向けに巡礼専門の旅行業を営む経営者に聞き取り調査を実施した。本聞き取り調査では、巡礼の担い手である巡礼専門旅行者のライフヒストリー、巡礼業者間のネットワークについて明らかにすることができた。

以上の研究から、現代インドネシアにおける宗教外交、および巡礼事業は、中東・北アフリカ地域の高等教育機関に留学経験があり、アラビア語を戦略的に運用できる政府関係者らによって担われていることが明らかになった。

(2) インフォーマル・ネットワークの解明

平成28年度は、東南アジアにおけるインフォーマル・ネットワークを解明するために、資料収集および聞き取り調査を実施した。具体的には、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院図書館を訪問し、インドネシアから中東・北アフリカ地域への留学にかんする資料を収集した。また、エジプトにおいて、現地の高等教育機関および予備課程に学ぶインドネシア人を対象とした聞き取り調査を実施し、留学の経緯や背景、帰国後の進路等についてインタビューを実施した。これらの調査によって、明らかとなっ

たのは、次の点である。中東・北アフリカ諸国、特にエジプトのアズハル大学に留学経験のある卒業生によって構成される世界アズハル大学同窓会インドネシア支部は、インドネシア国内のイスラーム社会組織の構成員と多くが重複しており、構成員はインドネシア国内においてアズハル大学卒業生の紐帯と連帯の強化を促進するために、国内各地での同窓支部の設立など、組織化を進めていることが明らかとなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 件)

〔学会発表〕(計 2 件)

(1) Hiroko Kinoshita, 2017. "The Impact of The World Association of al-Azhar Graduates and its Social Role: The Case of Egypt and Indonesia," ICAS 10 (Chiang Mai, Chiang Mai International Convention Center 20 July).

(2) 木下博子 2016. 「文化人類学、地域研究の観点からのエジプト人留学生支援」 JAISE 第21回年次大会(8月27日)大阪大学.

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計 件)

名称：
発明者：

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

木下博子 (KINOSHITA Hiroko)
九州大学 国際交流推進室 助教
研究者番号：60711223

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()